

業種 農業

株式会社 ekubofarm

〒899-6303 鹿児島県霧島市横川町中ノ3835

設立 2019年4月

資本金 500万円

従業員数 6名



事業内容

株式会社 ekubofarm では、通常の慣行栽培（農薬を使用する栽培方法）ではなく、**化学肥料・農薬を一切使用せずに野菜を育てる、有機栽培を行っています（有機JAS取得済）。**有機JASマークとは、第三者機関（登録認証機関）から日本農林規格（JAS）を満たした農家であると認定された証。農薬を使わない、化学肥料を使わないという栽培方法は、確かに多くの手間がかかり、栽培が失敗に終わるかもしれないリスクを孕んでいる一方、「**同じ野菜を作るなら安心して食べられて本来の味が感じられる野菜をお届けしたい。**」という理念の元、運営しています。直接販売を行うため中間マージンが一切発生せず、有機野菜とは思えないお手頃価格での提供を実現。また、野菜を提供する生産者の立場として小学校での食育活動も行っています。

安心して食べられること、旬の美味しさを知ること。 新しい農業のあり方について、一緒に考えませんか？

農業の良いところについて

代表取締役の久保竜也さんは、サラリーマン時代は不健康な生活を送っていたが、現在は野菜を育てることで筋力がつき日に当たることで睡眠を十分に取れ生活リズムが整い、健康的な生活を送れているそうです。**野菜を育てることで、健康的に過ごすことができるのが良いところ**と話してくれました。

奥様の久保奈美さんは、以前保育士をやられていて保育園の子供達と食育の一環でピーマンなどを育てていたことがあったが、食育としてこれで良いのかという思いがあったとのこと。霧島で農業を始めて、野菜に旬があることに初めて気が付



いたそうです。そして**野菜を育てることで季節を感じられることが楽しい**と話してくれました。

働くうえで大切なことは？

（久保竜也さん）どう行動したいかを自分で考えながら働くことが大切だと思います。休日をどのように確保するかではなく、確保するためにどう働くかを考えていくと、ずるずる働くこともなく時間を有効活用して作業することができます。従業員みんなには自分が頑張って取った休日を価値あるものにしてほしいと思っています。与えられた休日を過ごすのではなく、**自分がやりたいことに時間を費やす過ごし方**をしてほしいです。

（久保奈美さん）メリハリをつけることが大事だと思っています。**17時が定時なのですが、それ以降の時間を楽しんだり、次の日の仕事に向け生活面を整えてもらいたい**です。最初はなかなかうまくいかないこともあり、体調不良で病院へ行ったりしていたときもあったので、仕事とプライベートでメリハリをつけるような働き方をしてほしいと思っています。



●こだわりのロゴマーク



●有機栽培で育てている里芋たち



●収穫された里芋たち。他の里芋との味の違いに驚かれる人も多いそう

労働環境のリアルについて

農業は、決して軽労働ではないですが、久保さんは筋トレ感覚で作業を行っているそうです。そのため、適度に体を動かして楽しんでいる感覚で、重労働とは感じていないそうです。楽しむをモットーとする久保さんならではの考え方だといえます。従業員の中には、主婦さんなど女性も多いですが、「作業しながら適度に体を動かして楽しんでいる」という声が聞かれるようです。

また、2～3時間ごとに作業内容を変え、気持ちにメリハリをつけているということでした。一日ずっと同じ作業をしないのは、精神面を良い状態に保てるようで、「ゴールを決めることで人はより頑張れる」と話されていました。

今後の展望について

まずは加工した作物の販売。有機農業でつくった作物は慣行農業のものに比べ、市場に出せる基準を満たさないものが多いそうです。しかし、それらのほとんどは食べられないわけではなく、見た目に問題があるだけ。そこで加工認証を取得、将来的にはカットした作物やペースト化した作物の販売を目指していると話されていました。現在は、作物自体の生育に尽力されており、有機野菜の加工品を新たなステップとして考えられています。また、北海道に農場を作ることも考えているそうで、農場から空港が近いので飛行機で北海道まで行けるので、土地に縛られない、自由に移動できる農業の新しい形を目指されているそうです。

移住者からみる霧島の魅力とは

霧島は空港が近く、お二人の地元である大阪に帰りやすいのも魅力の一つであるとのこと。霧島の自宅から実家まで約3時間でたどり着けるそうです。しかも、野菜や肉などの食べ物が新鮮で美味しいのも魅力と感じており、はじめは物産館があることに衝撃を受けていたそうです。さらに、大阪とのギャップとして、水道水が飲めるか飲めないかということも挙げられていました(鹿児島は水道水が飲み美味しいそうです！)。

そしてお二人が最大の魅力と感じているのが温泉の存在。農作業をした後に温泉に入ると疲れも一瞬で吹き飛ぶということでした。

そんな鹿児島・霧島の魅力に気付いていない地元の人もいそうで、とてももったいないと感じているそうです。



私は農業経験を一切経験することなく、1年間の研修のみで農業経営を実現しています。農業は若ければ男女を問わず働くことができ、固定観念に縛られていない新鮮な考え方が花咲く職業だと思っています。今からの農業はパソコン、携帯が使えないと勝てない時代に入っています。みなさんの経験でも十分に農業界で戦っていける戦力となります。一緒に働きましょう。そして一緒に世界へ有機野菜を届けましょう。

代表取締役社長 久保



～ 取材後の感想 ～



鹿児島大学
楓子

ekubofarmさんの「休みをとるためにどう働くか」という考え方が印象に残りました。働く時間を有効活用させることで作業に無駄もなく、休みも十分に確保できることは、とても充実した生活を送ることができると思いました。



鹿児島大学
かな

近年世の中の関心も高まりつつある有機農業ですが、取材前は「手間がかかる」「収量が少ない」などのネガティブなイメージを持っていました。しかし今回実際に有機農業を行う方のお話を聞いて、「人生が豊かになりそうだ」「やりがいがありそうだ」と感じられました。



鹿児島大学
くーさん

取材を通じて農業の知識だけでなく、農家さんや食材に対する感謝の気持ちを再確認することができました。取材の中であったように「旬のものを旬に食べる」ことを私も実践したいと思いました。



鹿児島大学
瑞希

有機農業の良さや鹿児島の良さを改めて認識することができました。また、実際に農場を見せてくださり、その広さに感謝して食べないといけないと感じました。将来、農業関係の仕事につきたいと考えているので取材は非常に自分のためになったと感じています。